

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第69回 埼玉県公衆衛生事業功労者表彰



左より深田茂則氏、山下康衣氏、山本英俊氏

令和7年10月24日(金) 第69回埼玉県公衆衛生事業功労者表彰式が埼玉県庁第三庁舎4階講堂において執り行われた。当会から推薦した久保居由紀子氏(JCHO埼玉メディカルセンター)、山下康衣氏(前埼臨技事務部長)、山本英俊氏(株式会社ビー・エム・エル総合研究所)、深田茂則氏(埼玉医科大学病院)の4名が公衆衛生功労者として埼玉県知事表彰を受賞しました。受賞者の皆様、このたびは誠におめでとうございました。

受賞者の皆様の喜びの一言を紹介します。

JCHO埼玉メディカルセンター
臨床検査科 久保居 由紀子

この度、埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。この栄誉ある賞にご推薦、ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会の皆様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の受賞は、輸血研究班での活動をご評価いただいたものであると思っております。

この活動を通して、たくさんのこと経験させていただき学ぶことができました。

理事の皆様のご指導や関係者の協力があってこそこの受賞であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後も微力ではございますが、埼玉県臨床検査技師会の一員として埼玉県民の皆様、会の発展のために精進してまいります。この度は誠にありがとうございました。

前埼臨技事務部長
山下 康衣

この度、第69回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会の松岡優会長をはじめとする埼臨技役員の皆様に深く感謝申し上げます。

私事、埼臨技事務員として平成13年に蒲池会長(故人)時代に採用いただき、その後、五内川(故人)・砂川・津田・神山・松岡会長のもとで働かせていただきました。その間、全国学会、支部学会、県学会、健康まつり等の行事に、実行委員や実務員として多くの経験をさせていただきました。また、細谷・遠藤監事の指導の下で会の経理処理が適正に行えるよう努めてまいりました。

今回の賞は、臨床検査技師の会員が受賞すべきものとして、在職中は推薦書類のチェックや提出に関わってきましたが、まさか私がいただけることになるとは思ってもおらず感無量です。

現在は退職しておりますが、埼臨技の皆様との沢山の思い出と今回のご褒美を糧に、埼臨技の益々の発展を祈念し第二の人生を模索して行きたいと思います。

このたびは誠にありがとうございました。

株式会社ビー・エム・エル総合研究所
検査管理部 検査教育課 山本 英俊

この度、第69回埼玉県公衆衛生事業功労者・国民健康保険関係者功績表彰式において公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。この栄誉ある賞にご推薦、ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会の松岡会長をはじめ、理事、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今回の受賞は、長年従事しておりました一般検査研究班および埼玉県医師会精度管理事業での活動などを評価いただいたものと考えております。これらの活動を通じてご指導いただきました諸先輩方、班員の方々、業務多忙の中でも快く送り出していただいた職場の方々、また家族の協力があってこそ、このような活動ができたものと思っております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後も皆様方のご指導やご協力のもと、微力ながら埼玉県臨床検査技師会の発展や県民の皆様の健康のため努力してまいります。この度は誠にありがとうございました。

埼玉医科大学病院
中央検査部 深田 茂則

この度、第69回埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦、ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会の松岡会長をはじめ、理事の皆様、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。私は一般検査研究班、埼玉県医師会精度管理事業での活動を通して技師会活動のお手伝いをさせていただきました。今回の受賞はこれらの活動を評価していただいたものだと思います。私が技師会活動を行うにあたり、ご指導いただいた職場、技師会の諸先輩方、ご協力いただいた職場の同僚や研究班員の皆様へ、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後もこの賞を励みにして、微力ではありますが埼玉県民の皆様の健康のため、埼玉県臨床検査技師会の発展のために貢献できるよう努力してまいります。この度は誠にありがとうございました。



日臨技品質保証施設認証2025年度審査 実施要項のお知らせ

(日臨技HP 2025/11/6発行)

2025年度審査 日臨技品質保証施設認証制度実施要項 が日臨技ホームページ「品質保証施設認証」の「品質保証施設認証制度の申請について」に掲載されました。申請予定施設におかれましては本要綱をよくご確認のうえ申請ください。

申請書類受付期間：【Step0及び1】2026年1月13日(火)～2026年2月4日(水)

【Step2】 Step 1申請完了～2026年3月6日(金)

実施要項ファイルのURL：

https://www.jamt.or.jp/public/activity/seido_kanri/asset/pdf/guidelines_2025.pdf



深谷市福祉健康まつり開催される

令和7年10月26日(日)深谷市ビックタートルにて、第20回深谷市福祉健康まつりが開催された。今年は雨天の中での開催であり、来場者数も昨年より少なかったが、埼玉県臨床検査技師会ブースに市民約300名が来場され、盛況なイベントになった。



以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

行田総合病院
中村 太一

第20回深谷市福祉健康まつりにスタッフとして参加しました。当日は指先で測定する血管年齢測定を行いました。天候は雨だったのですが、会場は多くの方で賑わっていて検査もたくさんの方々が参加してくれました。結果説明の際に、普段の生活から気をつけていることを教えていただきました。検査を受けた方のほとんどの方が、健康のために軽い運動や減塩などの食事を心がけていたので驚きました。



中には、臨床検査技師という職業についてどんな仕事をしているのかという質問をしてくださる方や、検査自体に興味を持っていただける方もいらっしゃいました。病院での勤務では接することができない方々と関わり、臨床検査技師を知っていただける良い機会になったと感じました。

今回のイベントに参加して、市民の方々だけでなく他施設の方とも交流する貴重な経験をすることができました。今後もこのようなイベントには積極的に参加し、業務に活かしていきたいと思います。

戸田中央病理診断科クリニック
小川 舞佳

今回、深谷市総合体育館で行われた第20回深谷市福祉健康まつりに参加させていただきました。当日は血管年齢測定を行いました。来場者の方々に測定した結果をお伝えする中で、多くの人が毎日の運動や食生活で健康に気を付けていることに驚きました。年齢より若い結果に喜ぶ方や、少しショックを受けながらも「これから気をつけよう」と話す方の姿を見て、健康への関心の高さを実感しました。地域の方々と直接ふれあいながら活動する中で、健康づくりの大切さを改めて感じるとともに、自身の生活習慣を見直す良いきっかけとなりました。今回の経験を生かし、また機会があれば積極的に参加したいと考えています。

わらび健康まつり開催される

令和7年10月26日(日)蕨市民体育館にて、第25回わらび健康まつりが開催された。昨年度は会場が国政選挙のため使用できず中止となり、2年ぶりの開催となった。当日は天候に恵まれながら、来場者も多く活気が戻り、健康啓発イベントとして大成功であった。



以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

**自治医科大学附属さいたま医療センター
横田 玲於奈**

10月26日に蕨市民体育館にて、わらび健康まつりが開催されました。当日は、あいにくの雨にも関わらず、多くの方々に足を運んでいただけました。



今回、埼玉県臨床検査技師会では、最終糖化産物(AGEs)測定、血管年齢測定を実際に体験していただきました。測定体験の際に参加者の方に検査の概要も同時に説明させていただきました。その際に、多くの方が日常生活を送る上で健康に関して注意しており、健康に対する意識の高さが伺えました。一方で、つい糖質を摂りすぎてしまうなどという、参加者自身では薄々気がついているものの、実際に行動には移せていない方もいらっしゃいました。今回短い時間での活動ではありましたが、そのような方々の健康に対する意識改善の一助になればと感じる面もありました。

今回、このような機会を通して、蕨市民の方々の健康に対する意識の高さを肌身に感じることができました。今後もわらび健康まつりなどのイベントを経て臨床検査技師という職を少しでも知っていただきたいと考えました。貴重な経験をさせていただきましたこと、埼玉県臨床検査技師会の皆様方に感謝をお伝えしたいです。ありがとうございました。

**戸田中央病理診断科クリニック
石田 華那**

今回、蕨市民体育館で行われた第25回わらび健康まつりに初めて参加しました。このようなイベントがあることを知り、興味を持てる良いきっかけになりました。検査は血管年齢測定と終末糖化産物(AGEs)の測定を行いました。当日は気温が低く指先が冷たい方が多かった影響でスムーズに測定できないこともありましたが、参加者の方々と協力し臨機応変に対応できました。蕨市民の方は日頃から健康を意識される方が多く、食生活や運動などアドバイスできることは少なかったですが、健康に対する考え方などを聞くことができて良かったです。今回、わらび健康まつりに参加し、微力ながら地域と臨床検査技師の知名度向上に貢献でき良かったです。

支部学術奨励賞受賞の喜び

株式会社ミロクメディカルラボラトリー 埼玉ラボ
江川 侑希奈

この度、第60回日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会において発表した演題「血液培養陽性検体を用いたRaST-TASの性能評価」で、支部学術奨励賞を受賞いたしました。

初めての学会発表で不安な部分もありましたが、発表後はこれまでにない達成感を得られたことを憶えています。伝えたい内容をより簡潔に伝えるための原稿作成や、一目で分かりやすいスライド作りなど、周りの方々にサポートしていただきながら試行錯誤を重ねた時間は、自分にとって貴重な経験になったと感じています。

初心を忘れず、今後も精進していきたいと思います。



研究班研修会報告

テーマ 2025年認定試験直前 !! スライドセミナー 2弾

主催 細胞検査研究班

実施日時：2025年10月10日 18時00分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1 消化器領域

講 師 1：小川 弘美（社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院）

講 演 2：泌尿器・体腔液領域

講 師 2：鳥居 洋祐（兵庫医科大学病院 臨床検査技術部 病理部）

講 演 3：その他領域

講 師 3：猪山 和美（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員153名 非会員1名 学生49名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 野本伊織 猪山和美 稲山拓司

小川弘美 並木幸子 加藤智美 中山美咲

研修内容の概要・感想など

本研修会は、細胞検査士認定試験に向けた実践的な学習支援を目的として企画されたものであり、第2弾となる今回は、消化器、泌尿器・体腔液、骨軟部など幅広い分野を対象にWeb形式で開催した。参加者は会員153名、学生49名に達し、県外からの参加も多く、受験を控える多くの受講者に活用された。

内容は、過去の認定試験で出題された症例を基盤に、各分野から10問ずつ（計30問）を選定し、実際の画像を提示しながら回答・解説を行う参加型の形式とした。

消化器分野では小川氏が、膵EUS-FNAや胆汁細胞診を題材に、良悪性の鑑別や評価のポイントを解説した。泌尿器・体腔液分野では鳥居氏が中皮腫と腺癌の鑑別を中心に、基礎知識と試験対策の両面から解説を行った。その他の分野では猪山氏が、骨軟部腫瘍や脳腫瘍など実務では遭遇頻度の低い症例を取り上げ、細胞像の特徴や観察の要点を示した。

テスト形式の構成により、受講者は自身の理解度を確認しながら出題傾向を把握でき、今後の学習の方向づけに役立てることができた。引き続き、受験者の実力向上と教育支援に資する研修の充実を図っていきたい。

(文責：鶴岡慎悟)

テーマ 多項目遺伝子検査が目指す、感染症診断への挑戦

主催 遺伝子染色体検査研究班・微生物検査研究班 合同

実施日時：2025年10月16日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：田中 パベル元（ビオメリュー・ジャパン株式会社）

参加人数：会員33名 賛助会員3名

出席した研究班班員：

（遺伝子染色体研究班）折原悠太 石橋佳朋 相良真理子 小内玲子 江原淳子 阿部秀俊

研修内容の概要・感想など

今回は遺伝子染色体研究班、微生物検査研究班合同で「多項目遺伝子検査が目指す、感染症診断への挑戦」をテーマに研修会を開催した。

COVID-19やインフルエンザなどの様々な感染症が存在する中で、臨床症状別での他項目遺伝子検査がより重要となる可能性がみえてきた。その検査手法の代表格であるビオメリュー・ジャパン株式会社の田中氏よりFilmArray®およびBioFire® SpotFire®の紹介があった。

FilmArray®は血液培養パネルや呼吸器パネルなどが発売されている。一般的な血液培養検体陽性後はグラム染色、菌種を同定、薬剤感受性試験など1～4日間程度要しているが、FilmArray®を用いた遺伝子検査では1時間程度で結果報告が可能となっている。また抗菌薬の適正使用により薬剤費用の減少につながった施設の紹介もあった。BioFire® SpotFire®はFilmArray®よりも小型で測定時間も短いため、運用の小回りが可能な機器となっている。そのため小規模な病院を中心に導入がされてきたが、ここ最近は大規模病院でも導入が進んでいる。様々な感染症が存在する昨今の状況を考えると、臨床症状別での他項目遺伝子検査は検査手法として合理的であり、TATの短縮および抗菌薬の適正使用にもつながる大きなメリットが存在する。本研修会を通じて、病原体遺伝子検査の在り方について日々の業務の参考になれば幸いである。

(文責：阿部秀俊)



お知らせ その2

埼玉県臨床検査技師会賀詞交歓会お知らせ

平素は埼玉県臨床検査技師会の事業にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。当会では令和8年賀詞交歓会及び各賞受賞記念祝賀会を開催することとなりました。

新年の抱負を語り合いながら、各賞を受賞された方へのお祝いと、会員・並びに賛助会員との親睦を深める機会として、ぜひご出席を賜りますようご案内申し上げます。

【イベント内容】令和8年賀詞交歓会及び各賞受賞記念祝賀会

日時：令和8年1月16日（金曜日）18：30～21：00

場所：ステラ・デル・アンジェロ

【イベント詳細・申し込み先】

埼臨技ホームページよりご確認・お申し込みください。

<http://www.sairingi.com/info/2025/samt/r8gashikoukan1114.pdf>

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第8回 理事会議事録**

日 時：令和7年11月13日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：I. 行動報告 II. 報告事項

III. 承認事項 IV. 議題

出 席：(理事)松岡 猪浦 濱本 阿部 西田
三木 網野 藤原 塚原 神嶋
長谷川 神戸 小林 工藤
久保田 原 土田

(監事)島村 益弘

Zoomにて出席

(理事)佐瀬

(監事)細谷

欠 席：(理事)山口 笛木 伊藤 長岡

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和7年10月9日～令和7年11月12日)

10月9日(木)令和7年度第7回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、
藤原、塚原、神嶋、笛木、長谷川、
神戸、小林、工藤、久保田、長岡、
原、土田

10月11日(土)、12日(日)

2025年度日臨技関甲信支部・首都
圏支部医学検査学会(第61回)：
松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、久保田、長岡、原、
土田

10月14日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委

員会：伊藤、藤原

10月15日(水)ホームページ業者打ち合わせ：
塚原、濱本

10月16日(木)令和7年度賀詞交歓会及び各賞受
賞記念祝賀会 会場打ち合わせ：
塚原・笛木

10月17日(金)2026年度日臨技関甲信支部・首都
圏支部医学検査学会(第62回)
第4回準備委員会：
松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、久保田、長岡、原、
土田

10月18日(土)令和7年度 第1回養成校連絡協
議会会議：山口、塚原、笛木

10月19日(日)タスクシフト指定講習会
(埼玉県037)：濱本、長岡、神嶋、
土田、佐瀬、猪浦

10月20日(月)ホームページ業者打ち合わせ：
塚原、濱本

10月26日(日)わらび健康まつり：
塚原、長谷川、神嶋、土田

10月26日(日)深谷市福祉健康まつり：
笛木、阿部、原

10月29日(水)一都八県会長会議：松岡、猪浦

11月5日(水)全国「検査と健康展」事前打ち合
わせ：山口、塚原、神嶋、長谷川、
笛木

11月6日(木)埼玉県精度管理調査：松岡

11月12日(水)埼玉県精度管理調査：松岡

II. 報告事項

1 事務局

特になし

2 総務部

- 1) 10月15日(水)ホームページ(株式会社ス
ターネクスト)業者と打ち合わせを行った。
(別紙資料1)
- 2) 10月19日(日)タスクシフト指定講習会(埼
玉県037)を開催した。 (別紙資料2)
次回以降の講習会は、令和8年1月18日
(日)、3月15日(日)開催予定

- 3) 10月20日(月)ホームページ(株式会社スイッチ)業者と打ち合わせを行った。
(別紙資料3)
- 4) ホームページリニューアル業者について三役・常務理事の承認をもって決定した。
- 5) 11月15日(水)より第558号発行予定。

3 事 業 部

- 1) 10月16日(木)令和8年賀詞交換会・各受賞記念祝賀会について
ステラ・デル・アンジェロ担当者と打合せを行った。
(別紙参照4)
- 2) 10月18日(土)令和7年度 第1回養成校連絡協議会会議を開催した。
(別紙参照5)
- 3) 10月26日(日)第20回深谷市福祉健康まつりへ参加した。
(別紙参照6)
- 4) 10月26日(日)第25回わらび健康まつりへ参加した。
深谷市福祉健康まつり、わらび健康まつりの実務委員へ生涯教育点数付与の依頼を学術部に依頼した。
- 5) 11月5日(水)全国「検査と健康展」実行委員会を開催した。
(別紙資料8)

4 学 術 部

- 1) 10月6日(月)令和7年度第2回研究班運営委員会会議を開催した。
(別紙資料9)
- 2) 10月27日(月)「12月・1月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

5 精度保証部

特になし

6 会 計 部

- 1) 令和7年度正会員費5名25,000円、入会金4名4,000円、再入会1名1,000円、合計30,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。
累計549,500円/12回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第557号Web版7P36,300円を支払った。
- 4) 極東製薬工業より疑似便を用いた便潜血試験の精度管理方法に関する特許権等の譲渡対価319,441円の入金があった。

- 7 精度管理委員会
特になし
- 8 一都八県会長会議
1) 10月29日(水)一都八県会長会議に出席した。
(別紙資料10)
- 9 日臨技関甲信支部
特になし
- 10 日臨技
特になし
- 11 第53回埼玉県医学検査学会
1) 10月14日(火)第12回実行委員会が開催された。
(別紙資料11)
- 12 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)
1) 10月17日(金)第4回準備委員会が開催された。
(別紙資料12)

III. 承認事項**1 事務局**

- 1) 会員動向(令和7年度分)
令和7年11月1日現在
会員数 3,718名 [令和6年度会員数3,612名]
(新入会員250名)
- 賛助会員 68社 [令和6年度72社]
承認された。

- 2) 事務員時間給の増加について
上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

- 1) 全国「検査と健康展」の実務委員に生涯教育点数付与の許可をいただきたい。学術部へ対応依頼したい。
上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

- 1) 遺伝子染色体検査研究班: 今年度1月～2月に行う計画であった血液検査研究班との合同研修会について講師の都合で中止とする。
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
特になし
- 7 精度管理委員会**
特になし
- 8 第53回埼玉県医学検査学会**
- 1) 学会当日に、講演や企画、空き状況などの案内を学会公式LINEにて行う予定である。現在の無料プランでは月に1通しか送ることができないため、有料の「ライトプラン」(5,000円/月)を使用したい。ライトプランでは月に5000通の送信が可能となるため、メンバーが500人いた場合は10通の案内が送信できることとなる。
- 上記の件について、藤原美香学会担当理事より発言があり、審議の結果、埼臨技公式LINE(ライトプラン)を有効利用することとした。なお、Peatixのメール機能を有効に活用することも検討することとした。
- 9 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第62回）**
特になし

- IV. 議題**
- 1 事務局**
特になし
 - 2 総務部**
特になし
 - 3 事業部**
特になし
 - 4 学術部**
特になし
 - 5 精度保証部**
特になし
 - 6 会計部**
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

私には、今年86才になる母がおります。東京で一人暮らしです。少しづつ様子に変化が見られていましたが、やはり、認知症でした。現在は、皆様の多大なるご協力の元、何とか、一人暮らしを維持できています。変な話ですが、母が認知症となり、世の中の、特に介護の仕組みについて、勉強せざるをえず、その結果知識を得ることができたことは、一人の大人として貴重な経験でした。また、我々の仕事でもそうかと思いますが、自分が向き合っていることについて、何が発生する可能性があるのか、発生した場合、どのように対処すべきか、その手順は?と準備しておくことによって、雑にならず丁寧な対応が可能となるような気がします。認知症の母と向き合ってみて改めて感じております。今後も、頑張りすぎない程度に、想定範囲を広げて、母と付き合っていこうと思っています。

(塙原 記)

